

令和元年5月～7月の公海さんま操業の結果について（速報）

令和元年8月1日

全国さんま棒受網漁業協同組合

- 「指定漁業の許可及び取締り等に関する省令」において、北太平洋さんま漁業の操業期間等の制限が撤廃され、5月～7月に公海での操業が可能となったこと等から、本年5月より農林水産大臣の許可に基づく公海さんま操業が開始された（昨年までは「もうかる漁業創設支援事業」を活用した試験操業を実施）。本年の操業には、通常操業とロシア加工船への洋上売魚事業に18隻（洋上売魚事業は9隻ずつが交替で操業）、通常操業に2隻が従事した（いずれも100トン以上船）。
- 本年5月～7月の総漁獲量は5,003トン、総漁獲金額は3億5,210万円となり、漁獲量は昨年の57%、漁獲金額は昨年の51%であった。
- ロシア加工船への洋上売魚は、5月20日から7月15日まで実施され、引渡量は4,497トン、引渡金額は2億6,983万円（単価：60円/kg）であった。
5月は漁場が見つけれず、時化も続き、まとまった漁獲がほとんどなかったことから引渡量が昨年の約1割に留まった。6月はこれまでより東側の水域に漁場を見つけ、昨年並みの引渡しを行ったが、7月はまとまった漁獲に恵まれず昨年の半分程度で終了し、3カ月間の引渡量は昨年の52%となった。
なお、本年は、加工母船への引渡単価（階段式のスタート単価）が10円/kg下がったことから、引渡金額は昨年の40%となった。
- また、本年は、洋上売魚事業参加船18隻及び通常操業船2隻が、国内流通向けの水揚げを花咲港等で行ったが、水揚量は506トン、水揚金額は8,227万円（単価：162円/kg）であった。昨年の国内流通（年明けまで保管）は、花咲港に限り行われ、水揚量は105トン、水揚金額は1,675万円（平均単価：160円/kg）だったので、本年は量、金額とも約5倍に増加した。
- 過去3年間の「もうかる漁業創設支援事業（北洋サケ・マス流し網漁業の代替漁業）」では、洋上売魚事業の漁場は概ね東経159度から163度において形成された（日本の港から片道2～3日）が、本年の操業では、漁場が大きく東側に移動し、主たる漁場は東経169度から173度（片道4～5日）となって漁場が極端に遠隔化した。

<令和元年5月～7月の月別漁獲量及び漁獲金額：速報値>

1 漁獲量(kg)

年度	5月	6月	7月	合計	
洋上売魚	226,410	2,944,990	1,325,780	4,497,180	
通常操業	8,697	186,057	311,553	506,308	
合計	235,107	3,131,047	1,637,333	5,003,488	
(参考) もうかる 漁業	28年	749,391	2,280,831	1,606,457	4,636,679
	29年	1,305,506	4,661,782	1,391,440	7,358,728
	30年	2,156,024	3,109,492	3,455,053	8,720,569
	平均	1,403,640	3,350,702	2,150,983	6,905,325

2 漁獲金額(円)

年度	5月	6月	7月	合計	
洋上売魚	13,584,600	176,699,400	79,546,800	269,830,800	
通常操業	2,609,518	18,651,174	61,006,529	82,267,221	
合計	16,194,118	195,350,574	140,553,329	352,098,021	
(参考) もうかる 漁業	28年	38,144,846	134,681,987	100,675,740	273,502,573
	29年	87,133,898	335,795,947	110,988,800	533,918,645
	30年	151,212,900	234,418,570	302,597,279	688,228,749
	平均	92,163,881	234,965,501	171,420,606	498,549,989

注:数値については今後変更される可能性がある。

(参考) 「もうかる漁業創設支援事業」について

- ・実施主体：全国さんま棒受網漁業協同組合、根室漁業協同組合
- ・事業年度：平成28年度～30年度（補助期間）
- ・操業期間：5月～7月
- ・操業水域：公海（北部太平洋水域）
- ・操業隻数：平成28年13隻、29年12隻、30年10隻

連絡先：全国さんま棒受網漁業協同組合
TEL 03-3583-4008